



東光

福岡市立東光中学校
学校通信
2019.8.27

SDG School for SDGs 「だれ一人取り残さない学校と未来をみんなで作る」

過去を知り、世界の人とともに未来へつなげよう

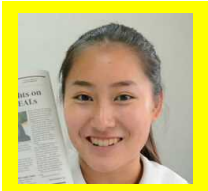
校長 高木 徹

帰省する 夏の空には なき祖父母

3年 長峯 未優



8月は、日本人にとって、そして世界の人々にとっても、絶対に忘れてはならない出来事があった月です。8月6日広島、8月9日長崎に原子爆弾が投下されたことは、皆さんも知っていますね。左の写真は、アメリカの従軍カメラマンだったジョー・オダネル氏が、原爆投下直後の長崎で写し、その後50年経って初めて公開された「焼き場に立つ少年」と題された写真です。この写真について、オダネル氏は次のように説明しています。「・・・白いマスクの男たちがおもむろに近づき、ゆっくりとおんぶひもを解き始めました。このとき私は、背中の幼子がすでに死んでいることに初めて気づいたのです。男たちは幼子の手と足を持つとゆっくりと葬るように、焼き場の暑い灰の上に横たえました。・・・まばゆいほどの炎がさっと舞い立ちました。



古賀野々華さん
(大牟田市)

「戦争を終わらせた原爆」を誇る住民が多い町で、こう問いかけた。「罪のない人たちの命を奪うことに、誇りを感じるべきでしょうか？」



アメリカ西部ワシントン州リッチランド高校のロゴマーク

原爆のきのこ雲は町のシンボルであり誇りでもあった。

真っ赤な夕日のような炎は、直立不動の少年のまだあどけない頬を赤く照らしました。その時です。炎を食い入るように見つめる少年の唇に血がにじんでいるのに気がついたのは、少年があまりきつくかみしめているため、唇の血は流れることもなく、ただ少年の下唇に赤くにじんでいました。」
(『トランクの中の日本』、1995年、小学館より)

この写真が撮られて74年後のこの夏、福岡県のある高校生の動画が世界で話題になりました。大牟田市の古賀野々華さんは交換留学でアメリカ西部ワシントン州リッチランドの高校に通うことになりました。リッチランドは、長崎に投下された原子爆弾に使われたプルトニウムが生産された町で、古賀さんが通う高校のロゴマークに原爆投下を意味するキノコ雲のデザインが使われるなど、住民の多くはその歴史を誇りとしてきた町でした。留学後に町の歴史を知り、歴史の授業で、多くのクラスメイトが「原爆のおかげで戦争が終わった」という考えを持っていることに彼女は、「何かしなければ」と思うようになります。そして、帰国間近に校内放送に出演し、原爆で大勢の市民が犠牲になったことや、日本では原爆の恐怖を学び、犠牲者を悼む日があることなどを紹介し、「キノコ雲は、爆弾で破壊されたものでつくられています。わたしはキノコ雲に誇りを感じることはできません」と話しました。この校内放送を見た同級生からは、「動画がなければ、日本側の意見を知ることは一生なかった。」と好意的に受け入れられ、地元の新聞でも取り上げられ、ツイッターで「ロゴを変えるときが来た」などの意見も上がりました。(一方で、原爆が終戦をもたらしたという意見もありました。)

国が違えば、歴史のとらえ方は、さまざまなものになります。私たちは、被害者の歴史とともに加害者の歴史も持っています。しっかりと過去を知り、そして世界の人たちと語り合いましょう。それが「焼き場の少年」の悲しみを二度と繰り返さないことにつながるのだと思います。

◇ 中総体・中文連 3年生部活動生 素晴らしい勇姿をありがとう！



【結果他】

野球部：区大会1勝2敗

サッカー部：区大会優勝 市大会出場

女子バレーボール部：区大会トーナメント惜敗

女子バスケットボール部：区大会トーナメント惜敗

卓球部：区大会男子団体3位 個人戦 馬場大聖(3年)ベスト8
浅井晴也(3年)大迫礼歩(3年)ベスト16

吹奏楽部：8月18日(日)東福岡高校にて盛大に定期公演を行いました。

美術部：作品『いつか出会うきみへ』出展 職員室入口に掲示しています。



古立先生日記

Teacher's summer vacation

今回は2人の先生の夏休み取材しました。さあライアンの日記は読めるかな？

今年の夏は、昨年に引き続きオランダを訪れました。首都アムステルダム近郊のハールレムという街で行われたベースボールトーナメントに出場したのです。福岡県内から15名の選手を率いてのツアーでした。東光中学校からも3名の選手が参加し、それぞれに活躍しました。日常ではできないいくつもの体験を今年も選手諸君に提供することができました。それらは観光旅行ではできないことばかりです。まず、宿泊先ですが、ホテルではありません。一般の方々には宿泊できない修道院に今年も全行程滞在しました。朝は毎日チャペルに集まり、静かに祈りを捧げました。自分が受けたたくさんの「ありがとう」を思い浮かべ、感謝の気持ちを伝えました。また、観光地ではない個人所有の「風車」を訪れ、内部を見せていただきました。驚いたことが2つありました。管理人さんが、寝泊りをして、風車を護っておられることと、13歳の少年が、風車の管理人をめざし国家試験をパスするための修業を積んでいるということです。これらの体験は、人と人とのつながりがもたらすものです。旅行会社を頼らず、世界の友人たちが福岡の子どもたちを迎え入れてくれます。9月にはドイツ姉妹校交流が行われます。3年目になるこの事業。仲間たちがドイツで私たちを待っています。



ライアン日記



I went to Sasebo to see my family during my summer vacation. My mother, my father, and my two sisters live in Sasebo now. I enjoyed playing basketball with my youngest sister, Ellen, who is 15 years old. She surprised me because she was so good at basketball! I also enjoyed seeing my other sister, Claire, work hard at her new job. She got a new job at a bank so I'm very proud of her! I had a good time with my family.

僕は夏休みに佐世保にある実家に帰りました。今、お母さんとお父さんと二人の妹は佐世保に住んでいます。15歳の下の妹のエレンと一緒にバスケットをして楽しかったです。バスケットがうまくなってびっくりしました。もう一人の妹のクレアが新しい仕事で頑張っている姿を見るのも楽しかったです。最近銀行で働き始めたから誇りに思っています。家族といい時間を過ごしてきました。

先生たちは、夏にたくさんの研修を積みました。みなさんも学校に来て勉強をしている人がたくさんいましたね。新チームで、てんでこまいしながら、走り回っている姿もみました。いよいよ前期後半戦が始まります。フォーサイトで先の見通しをもち、ひとつひとつを全力で頑張っていきましょう。今日からサマーモーニングラーニングです。RKBの取材も入りました。さあいよいよスタートです。



Web サイト:

<http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/jhtoko/index.html>

連絡先: 092-411-2935